



秋田県高等学校野球連盟会長に就任して

秋田県高等学校野球連盟

会 長 尾 形 徳 昭

この度の会長就任にあたりましては、評議員の各先生方から御推挙いただき誠にありがとうございます。微力ながら精一杯勤めさせていただきますので、今後とも御支援、御協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

今、世界は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、昼夜を問わず懸命な対応が為されている状況であります。日本国内においても学校は臨時休業を余儀なくされ、部活動はおろか、正規の学習活動さえ満足に行えておりません。各家庭でも不要不急の外出を自粛するよう要請され、生徒の皆さんは、家庭での学習や自主トレーニングに励む毎日が続いており、精神的な苦痛に耐えながらも、学校再開の日を待ち望んでいることと思います。そして一日も早くグラウンドに出て、憧れの甲子園を目指して、またひたむきに練習をしたいと強く感じていることでしょう。

私も40年前は、皆さんと同じように甲子園に憧れて、日夜練習に励む高校球児でした。残念ながら甲子園出場の夢は叶いませんでしたが、その分、今度は指導者として16年間甲子園を目指しました。それでも夢は叶いませんでしたが、今、多くの教え子たちが甲子園を目指して、高校球児を指導している姿に励まされて、仕事をしています。

今から10年前の夏、高野連の事務局長として初めて甲子園を視察した際、夕暮れの甲子園球場でしたが、バックネット脇の階段を上って球場に入り、後ろを振り返って大観衆を目の前にした時、思わず涙が溢れてきました。喉がひりひりして言葉が出てきませんでした。恥ずかしくて顔を上げることができませんでした。ずっと憧れ続けていた甲子園に出会えたこの瞬間のことは、今でも脳裏に焼き付いています。

毎年甲子園の開会式を見ると、センバツであれ、夏の選手権であれ、感動で涙が溢れてきます。これは高校時代からずっとです。物心ついた頃から、木の枝でボールを打って、石ころのベースを踏みながら野原を駆け回っていた頃から野球には縁があったようですが、野球からはいろいろなことを教わりました。本当にたくさんを教わりました。野球を通じていろんな人と出会い、いろんな本にも出会い、いろんな考え方を学びました。野球をやっていなかったら、今の自分はなかったと思います。

「甲子園の心を求めて」という佐藤道輔さんの著書があります。このタイトルがとても好きです。「甲子園には魔物が棲んでいる」と言われますが、どんな魔物なのでしょう。私には、目指すものに感動を与えてくれる存在のようにも思えます。育ててくれた野球と多くの方々に感謝の気持ちを込めて、精一杯頑張らせていただきます。繰り返しになりますが、どうか御支援、御協力を賜りますよう宜しくお願いいたします。